この学校では、こんな学びが始まる

多様な学びのニーズに対応した教育機会の確保

3課程の柔軟な併修と「遠隔×リアル」のハイブリッド支援による誰一人取り残さない教育

高知県立高知東（こうちひがし）高等学校

全日制／総合学科・看護科（専攻科）

この改革が必要な背景

- 本県では人口減少が進み、特に中山間地域等の小規模校では、生徒数が減少することで、**生徒の進路に応じた講座の開設が困難**。
- 全国に先駆けて遠隔授業に取り組んでいるが、進路別の講座の増設と共に、**学びの多様化に対応するための遠隔教育や教育課程の充実が急務**。

事業概要（学びの変化）

3課程（全日制・昼間定時制・通信制）併置校の特性を最大限に活用した「遠隔×リアル」のハイブリッド支援

- ✓ 課程の垣根を超えた併修や転籍制度により、生徒一人一人に合わせた**オーダーメイドの学びを可能**にする拠点
- ✓ 併設する遠隔授業配信センターからの**遠隔授業やメタバースを活用した「遠隔」学習**と、敷地内に新設する**「地域コモンズ」**での専門人材による**「リアル」な伴走ケア**を融合
- ✓ 通信制協力校の設置に向け、デジタル添削やLMS（学習管理システム）を導入した**「通学できる通信制」のモデル**を研究・実践

「高知県立『高知家』高等学校」構想の推進

- ✓ エリア別に学校間を結び、多様な選択科目や**合同ディスカッションを双方向から展開**
- ✓ ティーム・ティーチングや授業の相互融通により、**全県立高校を仮想的に一体化**
- ✓ **バーチャル空間での協働学習**や不登校・病気療養中の生徒への**居場所提供**を通じ、社会性育成と**柔軟な履修環境を構築**

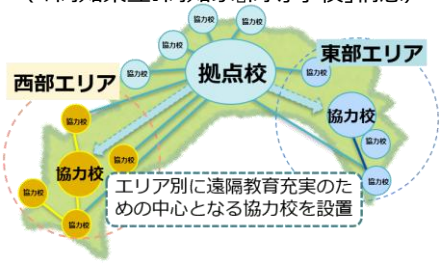
（地域コモンズのイメージ）



（次世代型遠隔授業配信センターのイメージ）



（「高知県立『高知家』高等学校」構想）



＜生徒の１日の流れ（例）※昼間定時制所属　２年Aさん＞

【9:00】
地域コモンズの学習室で
当日授業の予習

【10:30】
昼間定時制教室へ登校
授業を受ける



【12:30】
地域コモンズの交流スペースで、
課程を越えた同級生との交流

【16:00】
放課後全日制と
合同の部活動



【17:00】
地域コモンズで宿題サポート、
進路相談、資格取得補習等

高校生の未来の姿（指標の例）

拠点校の進路決定率（就職・進学等）　（R10）97%　⇒　（R13）100%





他校への普及方策

・拠点校でのハイブリッド型公開授業や研修会（企業講師を含む）
・ワークショップ等を通して先進的な不登校支援（メタバースやAI活用等）のノウハウを共有

主な連携機関

高知大学、高知県立大学、
高知工科大学、(株)四国通建、
(株)エレパ、NPO法人こうち
サポートネットウィン　等

（出典）画像は生成AIにより作成

１．施設・設備整備のイメージ



＜地域コモンズ＞

〔施設の機能〕
〇生徒が安心して通える「第三の居場所」の創出
〇遠隔教育システムを活用した地域コモンズと通信制協力校の連携
〇NPO法人等による宿題サポート、進路相談、個別指導などの提供場所

〔施設概要〕
自習室（広く落ち着いた大空間）
個別視聴ルーム
地域交流スペース
遠隔授業配信スタジオ（生徒支援の県域拡充拠点）

設置場所：
高知東高等学校多目的グラウンド
敷地面積：６００㎡

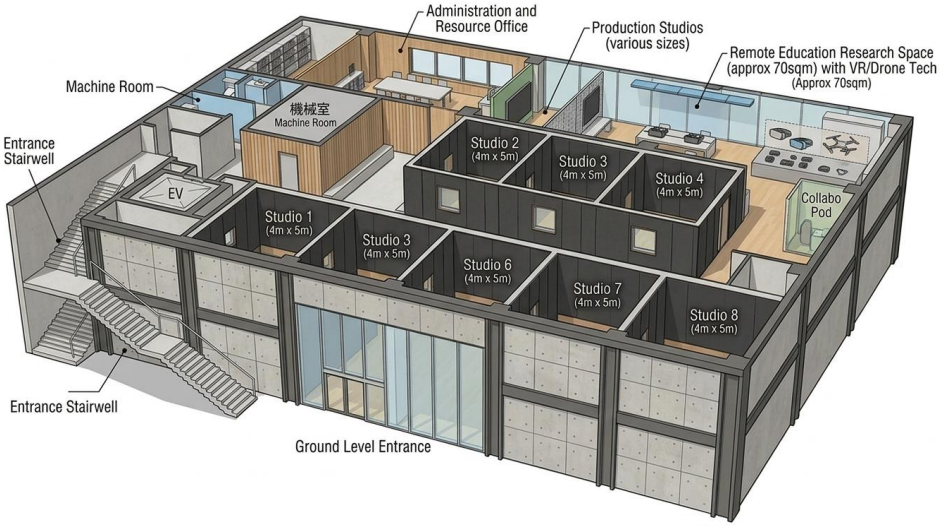
○遠隔授業配信センター

〔主な用途〕
・8室の遠隔授業配信スタジオ（防音・機材完備）
・職員室

○次世代型遠隔教育研究ラボ（遠隔授業配信センター内）

〔施設の機能〕
・様々な学習スタイル・環境に対応可能なプラットフォームの構築
・研究者・教育者が集まりディスカッションや実験を行う
・VR教室、AR教材によるパーソナライズ学習支援

〔施設の概要〕
・次世代型遠隔教育配信スタジオ
・撮影・配信スペース（VR/AR機器）



※上記画像（イメージ）は生成AIにより作成

2. 教育改革の内容を踏まえた施設・設備整備

施設整備の内容	左記施設・設備と教育改革の内容との関係
地域コモンズ （拠点校敷地内への増築）	3課程併置校に改編する拠点校は、その特性を最大限に生かして、ICTの高度な活用と地域社会との緊密な連携により、生徒の多様な学びに適した環境を整備する。 改編後には通信制のスクーリング教室の不足が想定される。また、スクーリング設定日以外にも「通学できる通信制」として、地域資源を生かした教育プログラムやイベントを実施したり、学習支援スタッフが生徒の学びをサポートしたりすることとしている。 これらの取組を実現するためには、全日制、昼間定時制、通信制それぞれの生活導線を整理したり、外部スタッフが活動したりする場所の確保が必要であるが、現校舎にそういった余剰スペースはない。 拠点校敷地内に「地域コモンズ」を整備し、生徒が安心して通える「第三の居場所」を学校内に創出し、生徒一人一人の支援を実施することで、多様な学習ができる本県の中心として、生徒一人一人の多様な事情にきめ細やかに対応していく。
遠隔授業配信センターの設置及び次世代型遠隔教育研究ラボ （地域コモンズ内に設置）	現在、県教育センター内に設置している遠隔教育配信センターを拠点校に移設するにあたって、今後の遠隔授業の拡充にも対応可能な数の配信スタジオを整備するとともに、遠隔授業配信センター教員の職員室も整備し、円滑な運営ができる施設とする。 また、VR機器等を導入したラボを整備し、まるで同じ教室・空間を共有しているかのような没入感・身体性を伴う協働学習を可能にする次世代型遠隔教育を研究・構築する。これらの取組により、不登校の生徒に限らず遠隔地の小規模校の生徒にとっても、日常的に多様な他者と交わり社会性を育むことができる環境が創出できるようになり、将来の超少子化時代においても対応できる遠隔教育の高知県モデルを構築する。 高知県が先進的に取り組んできた遠隔授業配信センターを拠点校に移設することで、さらに遠隔教育を拡充するとともに、県立高等学校すべての教員が遠隔授業を円滑に行えるようになるための次世代型遠隔教育指導に関する研修やサポート体制のための拠点とする。